

ポーチュラカ ハッピーアワー™シリーズ/ハッピートレイルズ™シリーズ

学名: *P. grandiflora* (Moss Rose)

種子粒数の目安: 9,300-10,000 粒/グラム

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用する。培地の pH は 5.8 から 6.2、また EC は 0.75mmhos/cm(2:1)以下。ポーチュラカは塩類に、とくに発芽段階ではアンモニアにひじょうに敏感なので、高くないように注意する。

播種

ハッピーアワー、ハッピートレイルズともマルチペレット、普通種子(raw seed)の供給が可能。マルチペレットからは、通常 2 から 4 つの発芽が確認されます。トレイサイズは 288 穴が適当。覆土はしない。

日長時間との関係

ポーチュラカは短日に影響を受けやすい植物で、育苗の段階から注意する必要がある。日長時間が限界を下回ると、株がロゼット(花芽をつけずに生長を中断)に入ってしまうので注意する。一度ロゼットに入ると、長日条件に戻しても回復は困難である。

株をロゼットさせないためには、ハッピーアワーの場合は自然の日長時間で 10 時間半以上の条件で、またハッピートレイルズでは 10 時間以上の条件で播種する。これらの条件に満たない短日で播種する場合は、日長が 12 から 13 時間になるよう電照による補光(明期延長)を、自然に条件が満たされるまで続ける。

ステージ 1 - 発芽には 2,3 日要する

地温: 22 から 26°C

光条件: 必ず必要ということではないが、100 ルクス(10 f.c.)程度の光は有効である

水分: ステージ1では、最適な発芽環境を整えるため水分レベルをやや湿潤(level 4)に維持する。ただし過湿や飽和状態にしないようにする

湿度: 子葉が発生するまでは相対湿度を 95%に維持

ステージ 2

地温: 22 から 23°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: 水分レベルを中位(level 3)に下げ始める。水やりの合間には培地がしっかり乾くようにして、根を強化する

肥料: レート 1(100ppm(N)以下、EC が 0.7mmhos/cm)で、リン酸分の低い硝酸態の肥料を与える。アンモニアの値を 10ppm 以下に抑える

ステージ 3

地温: 20 から 23°C

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)まで可能

水分: ステージ 2 よりもさらにドライな状態とし、次の水やりまでに培地の表面がライトブラウンになるような、level 2(やや乾燥)の条件で管理する。湿潤と乾燥、つまり level 4 から 2 を循環的に繰り返すようにする。ポーチュラカは、温暖で光が強く、また乾燥した条件を好みます。しっかりした根が形成されるよう、この条件を整えるようにします。

かん水は早いうちに行い、夕方までに葉が乾くような管理を続けましょう。リゾクトニアによる立枯れが発生することがありますが、これは概して過湿よって引き起こされるので注意しましょう

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm (N))に上げる。EC は 0.7 から 1.2mmhos/cm(1:2)を維持

矮化剤: 矮化剤は不要

ステージ 4

地温: 徒長を防ぐ点からも 18 から 19°Cとする

光条件: 温度条件が適当であれば 53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで上げて可

水分: 上記ステージ 3 と同じ

肥料: 上記ステージ 3 と同じ

鉢上げから出荷まで

用土

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、初期の EC 値は中庸

温度

昼間温度: 20 から 25°C

夜間温度: 18 から 19°C

※温度が低いと花芽がつかないか、あるいは開花しないので注意が必要

照度

温度条件が適正な範囲内で維持されていればできるだけ高くする。照度が低いと花芽が開かないことがあります

日長時間との関係

【**ハッピーアワー**】 苗を移植する場合は、日長時間が 10 時間半を下回らない条件で実行する。この条件を射満たさないときは、電照などを利用し 12 から 13 時間に達するよう明期延長する。プラグ苗の育苗については、「プラグ生産ステージ」の項目に記載されているように、必ず適正な日長時間による生産管理をする

【**ハッピートレイルズ**】 苗を移植する場合は、日長時間が 10 時間を下回らない条件で実行する。この条件を射満たさないときは、電照などを利用し 12 から 13 時間に達するよう明期延長する。プラグ苗の育苗については、「プラグ生産ステージ」の項目に記載されているように、必ず適正な日長時間による生産管理をする

かん水

過湿は避ける。次のかん水までの間に完全に培地が乾くような状態にする。根が育ってコンテナの内壁に達した後は、水分はいくぶん少なめにする

肥料

かん水とは交互に 15-0-15 の肥料を 150 から 200ppm(N) で与える。20-10-20 の肥料による代用も可能

PGR(矮化剤)

矮化剤は基本的には不要。かん水の調整(次の水やりまでに土を乾いている状態をつくる)で、丈の制御は可能である。また肥料を、とくにリンとアンモニア態窒素を控えることで、丈を制御は十分に可能である

平均的な生産期間

播種から移植まで(288 穴前後のトレイ):

4 から 5 週

ポーチュラカは低温と日照不足にとっても敏感な植物である。そのような条件では、下記に示した期間よりも長くなることが予想される

コンテナサイズ	株本数/ ポット・コンテナ	出荷適期までの 週数
606 フラット*	36	5
10 から 10.5cm ポット	1	5-6

*: 各セルの 1 辺が約 5cm の大きなプラグトレイのような形状。トレイ全体のセル数は 36(9 x 4)。

病例等

害虫: スリップス、ハダニ等に注意

病気: ピシウム、リゾクトニア等に注意

植え付けする際のポイント

- 定植は日あたりのよい場所に、降霜の時期を過ぎた後に行う
- 定植時の株間は 25 から 30cm。水はけのよい土に植えつける
- ポーチュラカは性質上、夜間は花が閉じる

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ピート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合もあります。